

# 宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター：宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 《前週との比較》

### □ 宮崎県第14週の発生動向

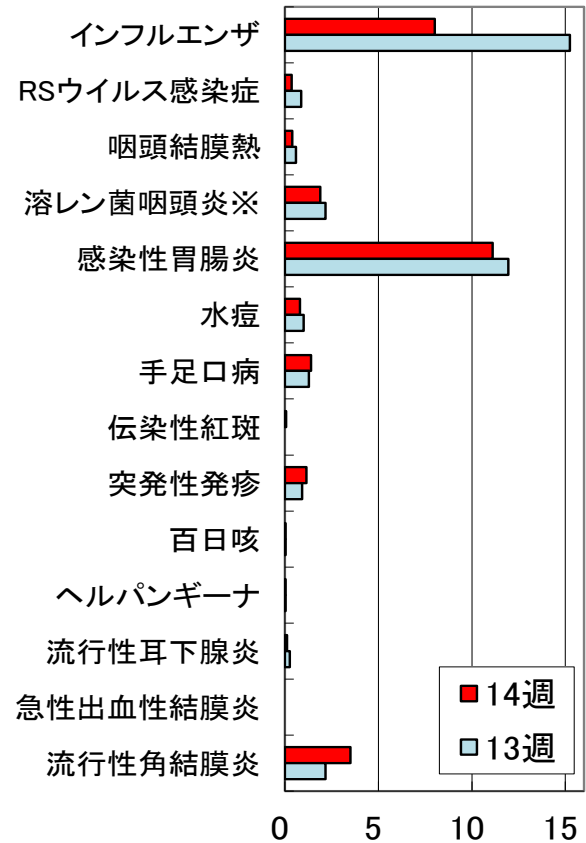
・定点医療機関からの報告総数は1,117人（定点あたり28.8）で、前週比79%と減少した。前週に比べ増加した主な疾患は手足口病と流行性角結膜炎であった。減少した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎であった。

### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

#### 【インフルエンザ】

・報告数は473人（8.0）で前週比53%と減少し、第14週において、流行警報レベル終息基準値（10.0）を下回った。例年同時期の定点あたり平均値\*（9.8）の約8割である。中央（21.0）、小林（17.6）、日南（16.2）保健所からの報告が多く、年齢別では5歳以下が全体の32%、6～9歳が22%、10～14歳が17%、15～19歳が3%、20歳代～50歳代が22%、60歳以上が4%を占めた。

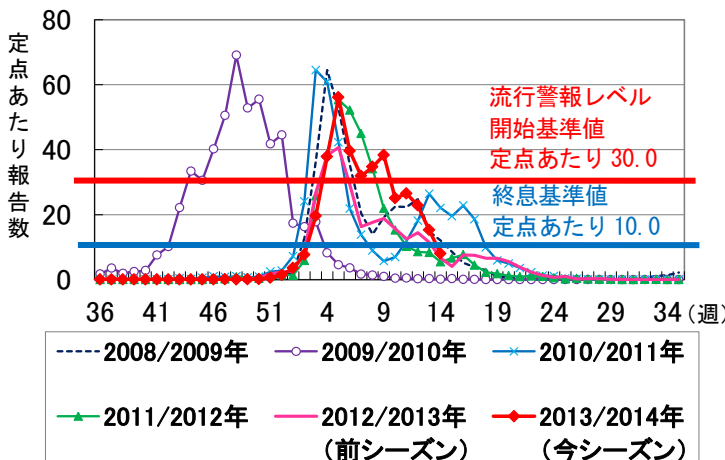
\* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均値



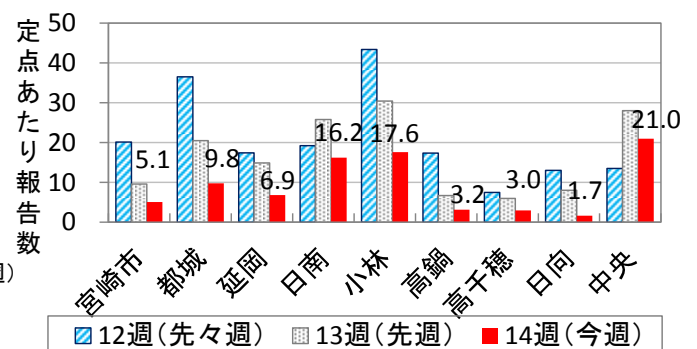
定点あたり報告数

※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

### インフルエンザ発生状況（シーズン別・宮崎県）



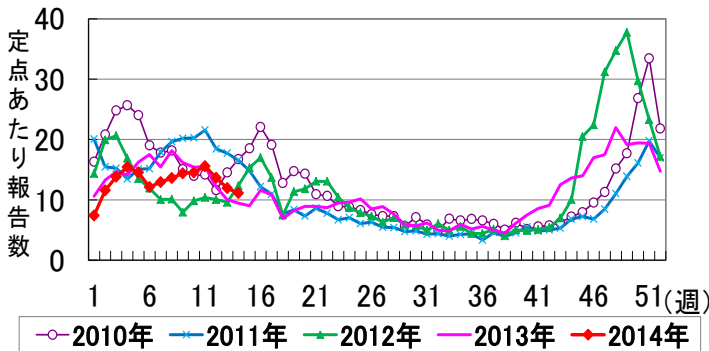
### インフルエンザ 保健所別推移（3週分）



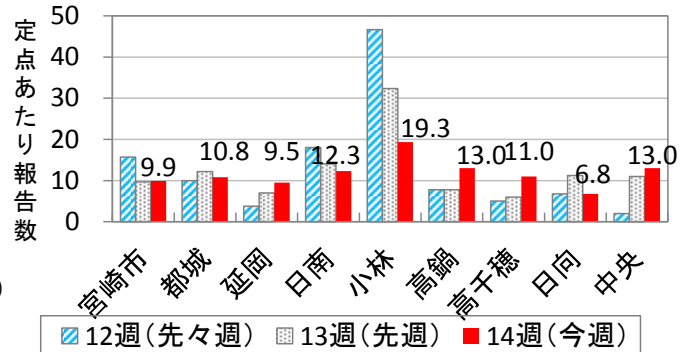
【感染性胃腸炎】

・報告数は400人(11.11)で前週比93%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値\* (13.9)の約8割である。小林(19.3)保健所からの報告が多く、年齢別では1歳から3歳が全体の約4割を占めた。

感染性胃腸炎 発生状況



感染性胃腸炎 保健所別推移 (3週分)



□ 流行警報レベル開始基準値超過疾患

流行警報レベル開始基準点を越えた疾患はなかった。

■ 全数把握対象疾患 (14週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症： 報告なし。
- 2 類感染症： 結核 5 例。
- 3 類感染症： 腸管出血性大腸菌 1 例。
- 4 類感染症： 報告なし。
- 5 類感染症： 梅毒 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	80歳代	肺結核	発熱、嘔声、体重減少、頸部リンパ節腫大
			80歳代	肺結核	咳、痰
		日南	70歳代	肺結核	呼吸困難
		高鍋	70歳代	肺結核	全身倦怠感
		中央	70歳代	結核性胸膜炎	発熱、呼吸困難
3類	腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	50歳代	患者	腹痛、水様性下痢、血便 原因菌:O157(VT1,2産生)
5類	梅毒	日向	40歳代	早期顕症梅毒(Ⅱ期)	扁平コンジローマ

## ■病原体情報（衛生環境研究所微生物部 平成 26 年 4 月 6 日までに検出）

### □ 細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Escherichia</i> spp	30歳代	男	2014.3.17	EPEC疑、LT産生、O不明		2014.3.28
EPEC(OUT:HUT eae)	0~4	女	2014.3.19	EPEC疑、eae(+)		2014.3.28
<i>Salmonella</i> Manhattan(O8(O6):d:1,5)	40歳代	男			便	2014.3.26
EHEC(O26:H11 VT1)	0~4	女		EHEC疑、胃腸炎、出血性下痢、血便	便	2014.3.28
EPEC(OUT:HUT eae)	10歳代		2014.3.26	EPEC疑、eae(+)		2014.4.3
<i>Salmonella</i> Infantis(O7:r:1,5)	0~4	女	2014.3.24	発熱(37.8℃)、下痢	便	2014.4.1
<i>Salmonella</i> Senftenberg (O1,3,19:g(s)t:-)or <i>Salmonella</i> Dessau (O1,3,19:g,s,t:-)	70歳代	女	2014.3.28		便	2014.4.3

○ 2名の患者から腸管病原性大腸菌（EPEC）が分離された。下痢原性大腸菌分類の見直しにより、EPECの判定基準は従来の0群の血清型別から eae（インチミン遺伝子）陽性の大腸菌で、ST/LT/VTを持たない大腸菌とされている（病原微生物検出情報 Vol. 33 No. 1）。しかし、eaeは腸管出血性大腸菌（EHEC）の主要な血清型の大半が保有していることから、VTが脱落した大腸菌との鑑別は困難である。また eae 保有の他の *Escherichia* 属菌が報告されていることから、起因菌の同定には生化学性状試験を含めて総合的に勘案する必要がある。

### □ ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	検出日
A型肝炎ウイルス	60歳代	女	2014.3.10	A型肝炎、発熱、黄疸、肝機能障害	便	2014.4.4
A型肝炎ウイルス	60歳代	女	2014.3.28	A型肝炎、黄疸、肝機能障害	便	2014.4.4
ライノウイルス	3ヶ月	女	2014.3.17	百日咳疑い、下気道炎、無呼吸	咽頭ぬぐい液	2014.3.25
ヒトメタニューモウイルス	11ヶ月	女	2014.3.20	肺炎、下気道炎、39.2℃	咽頭ぬぐい液	2014.3.25
パラインフルエンザウイルス1型	5歳	男	2014.3.10	気管支炎、下気道炎、39.0℃	鼻汁	2014.3.13

○A型肝炎と診断された成人2名からA型肝炎ウイルスが検出された。今年に入り、当所では14名のA型肝炎の検査依頼があり、13名がA型肝炎陽性であった。そのうち遺伝子型が判明している11名は全国で報告されている遺伝子型と同じIAであった。性差はみられず、年齢別では、20代から60代の幅広い年齢層で患者がみられており、特に60代で多い傾向にある。

○百日咳疑いの乳児からライノウイルスが検出された。また、肺炎と診断された乳児1名からヒトメタニューモウイルス、気管支炎と診断された小児1名からパラインフルエンザ1型が検出された。小児の呼吸器ウイルス感染症は春から夏にかけて患者が多くみられる。幼稚園や学校等の子供が多く集まる環境では集団感染の可能性が高くなるため注意が必要である。

## ■全国第13週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は23.1で、前週比78%と減少した。今週増加した主な疾患は水痘であった。減少した主な疾患はインフルエンザとA群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

インフルエンザの報告数は59,954人（12.1）で、前週比65%と減少した。福井県（27.2）、岩手県（22.1）、山形県（20.1）からの報告が多く、年齢別では、5歳以下が全体の27%、6~9歳が24%、10~14歳が16%、15~19歳が4%、20歳代~50歳代が23%、60歳以上が6%を占めた。

### □ 全数把握対象疾患（全国第13週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	384例				
3類感染症	細菌性赤痢	2例	腸管出血性大腸菌感染症	15例		
4類感染症	E型肝炎	5例	A型肝炎	4例	エキノコックス症	1例
	チクングニア熱	2例	デング熱	4例	日本紅斑熱	5例
	マラリア	1例	レジオネラ症	12例		
5類感染症	アメーバ赤痢	16例	ウイルス性肝炎	1例	急性脳炎	3例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5例	後天性免疫不全症候群	19例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	23例	梅毒	18例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1例	風しん	7例	麻疹	24例

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2014年 第14週(03月31日～04月06日)

疾病名		第13週	第14週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	899	473	81	98	48	81	88	19	6	10	42
	定点あたり	15.24	8.02	5.06	9.80	6.86	16.20	17.60	3.17	3.00	1.67	21.00
RSウイルス 感染症	報告数	31	13	2	1	3					7	
	定点あたり	0.86	0.36	0.20	0.17	0.75	0.00	0.00	0.00	0.00	1.75	0.00
咽頭結膜熱	報告数	21	14	3	3	4	3		1			
	定点あたり	0.58	0.39	0.30	0.50	1.00	1.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	78	68	19	10	12	7		7	1	11	1
	定点あたり	2.17	1.89	1.90	1.67	3.00	2.33	0.00	1.75	1.00	2.75	1.00
感染性胃腸炎	報告数	430	400	99	65	38	37	58	52	11	27	13
	定点あたり	11.94	11.11	9.90	10.83	9.50	12.33	19.33	13.00	11.00	6.75	13.00
水痘	報告数	36	29	1	4	8	2	9	2		2	1
	定点あたり	1.00	0.81	0.10	0.67	2.00	0.67	3.00	0.50	0.00	0.50	1.00
手足口病	報告数	46	50	33	1	1	1	4	6		3	1
	定点あたり	1.28	1.39	3.30	0.17	0.25	0.33	1.33	1.50	0.00	0.75	1.00
伝染性紅斑	報告数		2	1			1					
	定点あたり	0.00	0.06	0.10	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	33	41	8	6	10	5	2	5		5	
	定点あたり	0.92	1.14	0.80	1.00	2.50	1.67	0.67	1.25	0.00	1.25	0.00
百日咳	報告数	1	1			1						
	定点あたり	0.03	0.03	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	1	1			1						
	定点あたり	0.03	0.03	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	9	4	1		2			1			
	定点あたり	0.25	0.11	0.10	0.00	0.50	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	13	21	19	2							
	定点あたり	2.17	3.50	6.33	1.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2014年第1週～14週)

2類感染症	結核	53例(5)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4例(1)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	15例	重症熱性血小板減少症候群	3例
	つつが虫病	5例	ボツリヌス症	1例	レジオネラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	3例	ウイルス性肝炎	1例	急性脳炎	4例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	2例	侵襲性肺炎球菌感染症	2例
	梅毒	4例(1)	破傷風	1例	麻しん	3例

( )内は今週届出分、再掲